

論文内容要旨

論文題名

介護に対する肯定的認識および生きがい感と訪問看護支援

先行領域名 地域・在宅ケア・マネジメントと医療施設ケア領域

氏名 伊藤めぐみ

内容要旨

介護者が、肯定的認識や生きがい感を感じることで、負担感が低く抑えられ、介継続意欲や介護力を高めることが明らかになっている。

【目的】①介護に対する肯定的認識や生きがい感の程度、②属性による肯定的認識の違い、③どのような介護者の思いや考えが肯定的認識や生きがい感に影響しているかを明らかにする。また、④訪問看護師の支援に対する介護者の評価と⑤信頼を高める訪問看護支援、⑥訪問看護師の支援は、介護の肯定的認識や生きがい感に影響するのかを明らかにすることを目的とする。

【方法】訪問診療医から紹介された訪問診療と訪問看護を利用している介護者を対象に質問紙法にて調査を行った。介護の肯定的認識と生きがい感については、許可を得て山本の尺度（下位領域「被介護者への愛着」「介護についての自信」「介護からの学び」「規模の実践」からなる21項目および生きがい感4項目）を採用した。質問項目について記述統計を算出後、介護の肯定的認識の合計点の算出、下位領域については、それぞれを1因子とした主成分分析を行い、4つの肯定的認識と生きがい感の成分得点を算出した。基本属性について2群に分けて介護の肯定的認識についてマンホイットニーのU検定を行った。介護の肯定的認識、生きがい感、訪問看護師の支援12項目と訪問看護師への信頼についてSpearmanの相関係数を求めた。訪問看護師への信頼、介護の肯定的認識と生きがい感に影響する変数を決定する目的で、ダミー変数を用いて重回帰分析を行なった。分析にはSPSSVer26を用い、有意水準を5%とした。昭和大学保健医療学研究科人を対象とする研究等に関する倫理委員会の承認を得て実施した（承認番号482）。

【結果と考察】

介護者である対象者は、実の親と配偶者を介護しているものがほとんどだった。被介護者への愛着と関係性の良さ、介護からの学びや成長の実感、被介護者の在宅生活を維持できていることが、介護者の肯定的認識と生きがい感を高めることに影響していた。訪問看護師に対する介護者の評価と信頼は高く、支援を必要としていたが、訪問看護師の支援と肯定的認識・生きがい感の間には、直接的な関連は示されなかった。介護者が生きがいを持った生活を送るためには、介護に対する負担感の軽減だけではなく肯定的認識を高めることが重要であることが示された。